

「交流」を軸にした表現力の育成

笠岡市立真鍋小学校 交流研究会

活動の目的

本校は、全校児童5名、離島の極小規模校である。平素、限られた人間関係の中で1・2名で学習することが多いため、自分の考えを詳しく説明して伝える必要性をあまり感じていない。また、積極的に新しい人間関係づくりをしたり自分からコミュニケーションを取ったりすることが苦手な傾向がある。他小学校との交流は、今までも計画的に継続してきたが、新たな交流の場を開拓し、自分から進んで人間関係を構築しようとする意欲を引き出すとともに表現力の育成を図りたい。

活動の内容及び経過

1 地域行事を活用・発展させて

地域行事に参加する際、双方向でコミュニケーションがとれるように内容を工夫した。歌や劇、学習の取り組み等について発表した後、参加者と個々にふれ合って手遊びをしたり一緒に製作活動をしたりした。あいさつや会話が自然にできることが大切だと考えた。

地域の祭りの時には、観光客から撮影した祭りの写真を募集した。事前に作成したポスターを島の中や港に掲示したり、新聞で募集を広く広報したりした。応募してくださった方に対して、お礼の電話、感謝会の案内、感謝会の企画進行などをして、様々な表現活動を仕組むことができた。

夏祭りでは、例年、地域の団体がバザーや出店をしている。今年度は、児童が育てた野菜を売って、栽培の様子を地域の人に説明した。浜辺で集めた海そうを肥料にすると、野菜がみずみずしくなることを宣伝するよい機会となった。

5月	「走り神輿」写真コンテスト実施
7月	夏祭り参加
9月	敬老会参加
10月	市スピーチコンテスト参加
11月	地域と共催の学芸会で発表
12月	地域のお年寄り宅にふれあい訪問
1月	写真コンテスト応募感謝会
2月	デイサービス施設訪問
3月	公民館祭り参加

2 小小連携を発展させて

以前から市内島嶼部の小学校とは交流学习をしてきた。社会科見学や水泳学習も合同で行う特につなごうの深い学校もある。同じ友達と継続して活動することで親しみが増し、打ち解けて自分の考えを表すことができるようになってきている。

今回、地域性の違う小学校2校の協力を得て、新たな交流を行った。教師の期待以上に、児童は自分なりのめあてをもって、緊張しながらも張り切って活動することができた。

6月	いきいき交流スクール①② 合同水泳学習
9月	合同社会科見学① いきいき交流スクール③
10月	合同修学旅行
11月	笠岡市内小学校と交流会
2月	合同社会科見学②
3月	県北の小学校と交流会

<活動後の児童アンケート>

- ・自分から友達に話しかけることができるようになった。
- ・自分の意見を詳しく言うことができるようになった。
- ・はじめは緊張していたけれど、何回もいろいろな経験をしてみたら緊張しなくなった。
- ・いつもは少ない人数なので、他の人の意見など分からないけれど、交流することで自分とは違う考えの人と話合えることができ、とても勉強になった。
- ・たくさんの意見が出て、「なるほど」と思ったりした。いろいろなことがよくわかった。交流するとい学習ができる。
- ・あいさつしたり自分の意見をはっきり言ったりすることに気を付けて、頑張れたからよかった。

3 ICTを活用して

ウェブ会議に取り組み、交流の日常化を図ることができた。



11月	「人と科学の未来館サイピア」遠隔サイエンスショー
11月	他小学校とウェブ会議で定期的交流（～3月）

活動の成果・効果

今回、「新たな交流の場を開拓することによって、児童の表現力を高めることができる」と考え、他校や地域の協力を得て様々な環境設定を行った。

①遠隔地で行っている科学実験を、ウェブ上で会話をしながら、臨場感あふれるライブで見ることができた。タイムラグや障害が起きないように設備を整える人的支援をいただいたおかげで、科学実験の楽しさにふれ、自分達も意欲的に実験に取り組んだ。

②遠隔サイエンスショーの成果から、職員がウェブ会議の活用効果を強く感じ、児童が日常的に取り組めるように計画を進めた。

交流活動実施前に、他校の友達に自己紹介をしたり活動内容を伝え合ったりしたことによって、実際の交流をスムーズに行うことができた。また、事後に感想を伝え合ったり互いの学校生活を知らせたりして定期的に交流する場を作った。児童は、説明が行き届かない場合は思っていることが正しく伝わりにくいことに気づき、相手にわかりやすく話そうとする意識が高まった。

③年間を通して、多くの学校・地域で交流を繰り返したことで、多様な学習経験ができた。

極小規模校単独では実施できない内容や形態の学習では、同学年児童との親睦を深め大勢の中で意見を交わすことができた。自分のめあてを達成したり友達から考えや説明を褒めてもらったりしたこと、充実感や自信を得ていた。

また、初めて行った学校や初めて出会った人と、一から人間関係を構築したり積極的にかかわったりして、コミュニケーション力を伸ばすことができた。交流先で自分たちの地域について説明する機会が多く、相手意識・目的意識をもって活動したことで表現力も向上した。

今後の課題と問題点

①今年度、他校や地域の協力を得て多くの交流活動を行うことができた。その中には、来年度も継続できる学校が複数ある。交流の意義が児童によく伝わり意欲的に取り組むことができるので、今後は場を増やすのではなく内容を深めていくことが必要だと考える。事前事後の学習を含めて教育課程に位置付け、さらに効果の上がる活動にしていきたい。

②ウェブ会議によって、場所を移動しなくても定期的な交流が可能になった。テレビを通して行うので、伝え方を工夫する必要性が高く表現力の育成には大変効果的である。しかし、島嶼部はネット環境が厳しく通信が途絶えがちになる現状がある。設備の改善が急務である。

- 代表者：河野由美子 ●所在地：笠岡市真鍋島
- TEL：0865-68-3608
- E-MAIL：info@manabe-es.kasaoka-oky.ed.jp
- 設立年：2017年 ●メンバー数：5名